

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（文学）	氏名	劉金鵬
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 竹内好のアジア論―「心情」と思索―			
論文審査担当者			
主査	教授	河西	英通
審査委員	教授	金子	肇
審査委員	教授	勝部	真人
審査委員	准教授	太田	淳
審査委員	広島大学名誉教授	植村	泰夫
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、思想家竹内好のアジア論の理論的展開を「心情」というキーワードに注目して解明した挑戦的な研究である。竹内は難解な思想家として知られていたが、近年国内外で急速に研究が進められている。しかし、竹内のアジア論に関する言及は必ずしも十分ではなく、かつ重要なキーワードである「心情」についてはほとんど議論されてこなかった。本論文はこうした研究状況を打破して、竹内のアジア論を再検討するとともに、今日の時代状況との結びつきの可能性をも探る野心的な研究として、独自性と進取性が認められる。</p> <p>本論文は、序章、本論全8章、終章によって構成されている。</p> <p>序章では、竹内好研究の基本的動向をおさえながら、近年の論者として、小熊英二、孫歌、加々美光行を批判的に検討した結果、アジア論に関する分析の不足とその必要性を指摘する。同時に中国における竹内受容についてもふれ、アジア論理解が今日の日中問題にとっても緊要であることをのべる。</p> <p>第一章では、竹内のアジア主義的な「心情」の形成について、彼の経歴を追いながら、中国留学時に感得した「共通のルール」、アジア・太平洋戦争時の「日中提携」論などに注目するとともに、郁達夫から魯迅へ関心を移すことで、アジアにおける抵抗と苦悩に直面したことを論ずる。</p> <p>第二章では、敗戦後、魯迅評価をふまえて、日中の近代化比較に踏み出した竹内の所説を分析し、日中両国の近代化の相違だけではなく、東西文明衝突論を抽出し、彼が欧米の近代化を相対化して多元的近代化の展開を強く主張した背景として、文化接触時に発生した「心情」の存在に着目している。</p> <p>第三章では、竹内の近代化論の展開について、近代主義（鶴見俊輔）、思想史（孫歌）、中国研究（溝口雄三）の三方から検討し、自己（日本）認識の媒介としての比較対象（中国）、あるいは全肯定と全否定といった竹内の立脚点について議論を加えている。</p> <p>第四章では、戦後のアジア・ナショナリズム、とくに1950年代のアジア・ナショナリズムの動向を広く国内外の状況をふまえて整理している。ここでは竹内が進歩・反動という図式を否定することを通して、アジア論の射程、アジア・ナショナリズムのなかの「心情」を発見したことをのべている。</p> <p>第五章では、アジア・ナショナリズムのなかの「心情」を探るために、1942年に開かれた座談会「近代の超克」に関する竹内の言及をとりあげ、論点を「侵略」と「連帯」という明治国家の二重構造に求めることで、西郷隆盛、玄洋社などのアジア主義の歴史的意味について再検討している。</p> <p>第六章では、再度戦後史にたちもどり、竹内が60年安保闘争をアジア・ナショナリズムに通じるものとして位置付けていたこと、明治維新百年祭を提唱していたことに注目するとともに、彼の提案が体制派イデオロギーに横滑りしたこと、歴史家（遠山茂樹）との論争を招いたことを分析している。</p>			

第七章では、アジア的「心情」の帰結として、明治維新と中国革命の比較史的検討、中国文化大革命への論究をとりあげ、竹内の中国論が核実験礼賛に見られるように感性的であり、結局、「心情」は理論まで昇華しなかったと論じ、戦時期の思想水準まで後退していると指摘している。

第八章では、「心情」の再発掘・再生、その可能性を探るために、中国における「科学と人生観」論争やインドのタゴールの中国訪問、1964年の北京シンポジウムをとりあげ、イデオロギー対抗の背後に隠されたアンチ欧米的「心情」の存在について論じている。

終章では、竹内好におけるアジア論とは、表面的なアジア連帯論ではなく、単線的な歴史発展思考へ対抗する性格を持ち、多元的な社会発展をめざす「心情」であったとのべたうえで、今日、日中をはじめとするアジアにおいて「心情」を議論する必要性を提唱している。

以上のように、本論文は、現代世界においてあらためて読み直しが活発に行われ、再評価の声が高まっている竹内好のアジア論に向かって、詳細なテキスト分析と新しい視点に立脚した洞察を加えることで「心情」論というきわめてユニークな研究成果をあげた。ポレミックなあまり、論旨が流れる箇所もあるが、今後の竹内好研究、日中比較思想研究に資する重要な論文と評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。